

December 12, 2005

Intercollegiate Negotiation Competition Newsletter

Vol.4, No.4 (2005)

インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション運営委員会
The Steering Committee, Intercollegiate Negotiation Competition

第4回インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティションに参加していただき、有難うございました。

運営には色々と不手際がありましたが、皆さんが熱心に参加してくださったことで、成功裏に終わることができたのではないかと思います。

各大学での準備の日々、2日間の本番、懇親会や昼食会等での色々な出会いなどから、皆さんが何か貴重なものを得てくださったとしたら幸いです。

1. 最終順位の訂正

運営委員会からお詫びがあります。大会後の審査結果確認・分析の過程で、最終的な順位集計に誤りがあったことが判明いたしました。原因は集計に用いた EXCEL のプログラムミスです。

つきましては、最終順位を以下のとおり訂正し、上智大学を北海道大学と同位の第4位に、一橋大学を第5位といたします。第5位から第4位に変更となった上智大学、第5位となった一橋大学には、改めて表彰状をお送りするとともに副賞を贈呈します(上智大学については差額)。

関係各位には大変ご迷惑をおかけすることを心よりお詫びいたします。運営委員会では、今後このようなミスの再発を防ぐよう、運営体制の強化に努めたいと思います。

第1位 京都大学

第2位 東京大学

第3位 名古屋大学

第4位 北海道大学、上智大学

第5位 一橋大学

2. 審査結果について

本コンペティションでは、採点結果の詳細は公表していません。その分、各ラウンド終了後のフィードバックのための時間を充実させ、懇親会、ティー・タイム、閉会式等でも、審査員自身の言葉で皆さんに語りかける機会を増やすなど、審査員と皆さん方とのフィードバックを大切にしていきたいと考えています。

仲裁・交渉の審査は、審査員の問題の理解や主観によって左右される傾向があることは否定できません。運営委員会では、審査員事前打合会を実施する等して審査員の問題や規則に対する理解を深めるとともに、進め方や審査基準についての審査員間のバラつきを少なくするように努力しています。将来的には採点結果のフィードバックのあり方について、もう少し別の形も検討したいと思いますが、今回に関しては、昨年同様、全体的な傾向のみをお知らせしたいと思います。

- ① コンペティションの審査は、各審査員が50点満点で各ラウンドを審査します。各審査員には「ふつう」の場合には30点として審査をするよう依頼しています。各チームはラウンドA、ラウンドBを通じて6名の審査員から審査を受けることとなりますので、最高で300点ということになります。各大学の点数は参加チームの得点を平均して求めています。
- ② ラウンドAの全チームの平均点は107点、ラウンドBの全チームの平均点は109点、ラウンドA・Bの合計点の全チームの平均点217点でした。
- ③ 1位と2位の差は3.5点、2位と3位も4点程度の差でした。1位と7位の大学は23.5点、1位と10位の大学は約39点の点差でした。審査員が2名から3名に増えたため、点差も拡大したように思われます。
- ④ 大学によって、ラウンドAで高得点を稼いだ大学、ラウンドBで高得点を稼いだ大学、ラウンドA・Bともに平均的に稼いだ大学といった違いがあります。ちなみに、最終的に1位になった京都大学は、ラウンドAでは1位、ラウンドBでは2位でした。ラウンドBのみで最も高い得点を得たのは3位の名古屋大学です。
- ⑤ 一つの対戦は3名の審査員が審査をしていますが、審査員の点数が10点以上違ったケースは、ラウンドA、Bを通じて、12ケースありました。

審査員による審査結果は確かに重要ですが、一つの評価に過ぎません。上記⑤からもわかるように、何が良い仲裁・交渉であるのかについては、審査員の間でも意見が違ふことは少なくありません。また、それは現実の世界でもそうであるように、仲裁や交渉の性格上、やむをえないことであるともいえます。

皆さんは、自分がうまく出来た部分と出来なかった部分、チームがうまく機能した部分と機能しなかった部分、相手がうまかった部分と下手だった部分などを、実感されたことと思います。審査員からのフィードバックを参考に、皆さんのチームメートなどとの率直な意見交換を通じ、コンペティションでの経験を今後に役立てていただければと思います。

運営委員会としては、審査システムの改善に努力したいと考えています。同時に、学生のみならずには、点数化された審査結果に過度に拘るのではなく、準備の過程から本番にいたるまでの期間に皆さんが実感されたことや、生の言葉で伝えられた審査員や教員からのメッセージを大事にして欲しいと考えています。

3. アンケート結果

アンケートにご協力頂き有難うございました。頂いたご意見は今後のコンペティションの改善に役立てて参りたいと思います。また、少なからぬ方々から、今後、コンペティションの組織運営

等にお手伝いいただけるとのお答えを頂きました。各大学の教員の先生などを通じてお手伝いをお願いすることもあろうかと存じます。その折には何卒宜しく願いいたします。

アンケート結果は現在集計中で、集計作業が終わった時点でホームページを通じて集計結果の概要をお伝えしたいと考えていますが、「本コンペティションに参加してよかったですか？」という問いに対しては、次のような回答を頂戴しました。

1. とてもよかった	133名
2. よかった	43名
3. まあまあ	5名
4. あまりよくなかった	0名
5. 参加しないほうがよかった	0名

多くの皆さんに参加してよかったですと提供いただける大会となったのは、皆さんが熱心に取り組んでくださった結果であると思います。本コンペティションをより良いものにできるよう運営委員会も努力して参ります。

4. 忘れ物

以下の忘れ物をお預かりしています。お心当たりの方は運営委員会にご連絡ください。

- ・ 緑のマフラー（白い房付き）
- ・ 青のチェックのマフラー

5. DVD

本大会のスポンサーである住友グループ広報委員会様のご厚意で、参加者の皆様には本大会の様子を記録したDVDが贈られます。お届けできるのは2月から3月ごろになると思います。各大学の指導教員の先生にお送りしますので、継続的学習のための参考として、また今大会の記念として、大切にしてください。

以 上